

弘前大学大学院地域社会研究科 令和3年度 公開セミナー第2回
「人口減少・気候変動時代に人を育てるとはどういうことか」

場づくりからの展開 ～市民参加の場づくりを通じた「人材育成」の課題と展望～

土井 良浩

2022/1/12. Wed.

1. はじめに

本日本話するテーマについて

「地域づくり」=終わりのなきムーブメント

- 現状をよりよくしたり課題を解決したりする ためのアクションのアイデア

+

- 地域を次世代へと繋ぐ使命感を持ち、地域への愛着をもって自ら行動するプレイヤー(当事者)やその集団・組織 (=コミュニティ)

を産み出すことが“ひとまず目指すべきゴール”

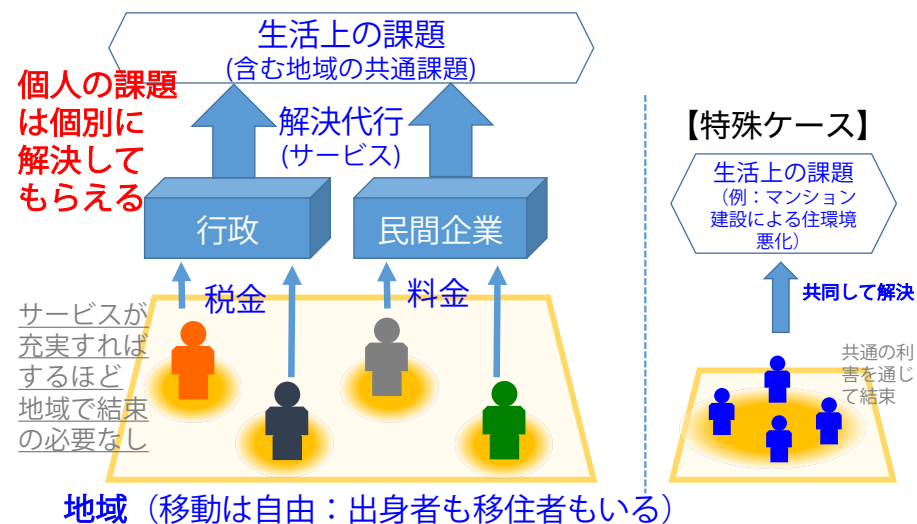
⇒そこから実際に活動をスタートすることで地域づくり

本日本話するテーマについて

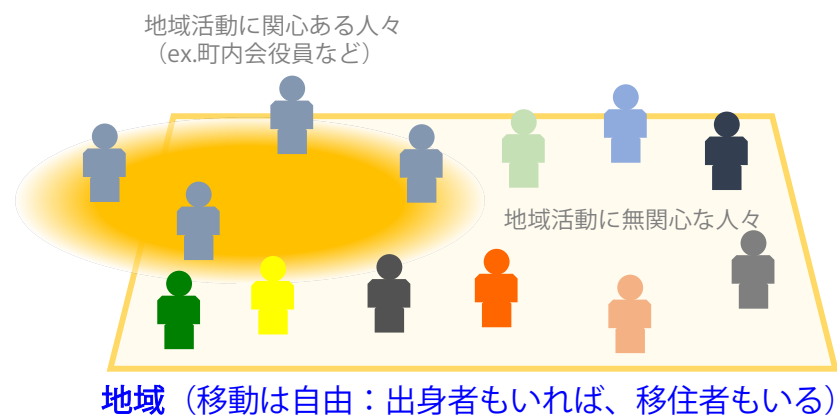
- 本日は、このゴールに向けた「連続的な場づくり」の事例（私が関わってきた県内の事例）を紹介しつつ、「人材育成」という観点から、その課題や今後の展開可能性について考えたい
- 私が青森に来てから地域社会研究科の先生方や客員研究員の方々、自治体職員の皆さんとともに関与しているプロジェクトを「人材育成」や「人を育てる」という観点から振り返るケーススタディ

2. 地域づくりのための「場(づくり)」とは

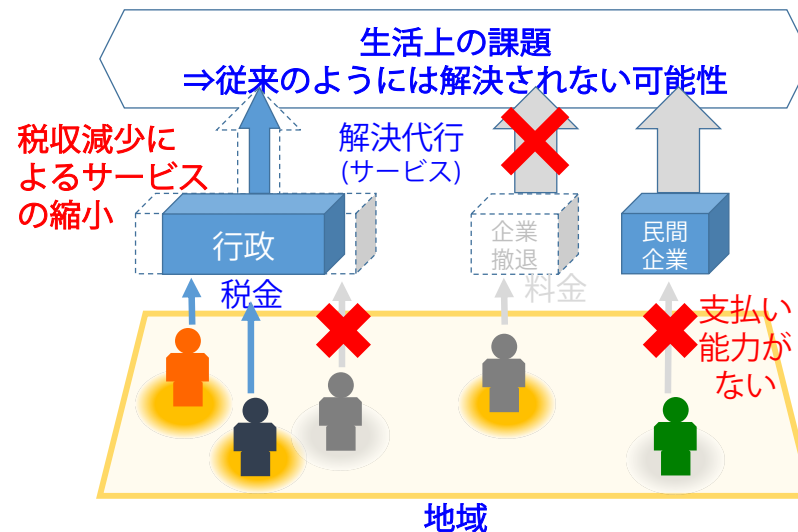
近代以降の地域社会と生活課題



現代の地域社会の姿 (地縁型コミュニティ)



人口減少社会における「地域コミュニティ」と地域課題

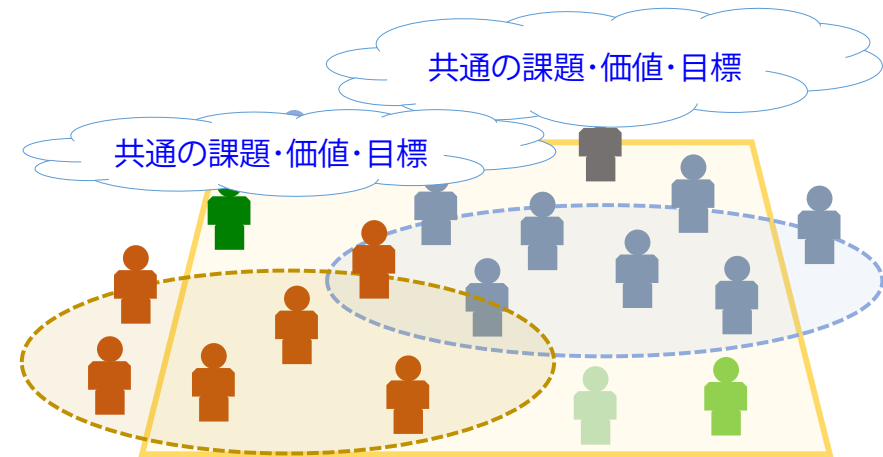


地域のあり方のシフトの必要性

- 一方、従来型の地域コミュニティ＝町内会・自治会が存在し、必要な活動をおこなっているが…
 - ⇒ 加入率低下 & 役員の高齢化・負担の増加
 - ⇒ 「やんにゃあまい」活動のルーティン化（非魅力的）
- ⇒ 従来の町会による活動の延長線上で状況を変えるのは困難
- ⇒ ひとりひとりが「やりたい活動」や「必要なこと」を軸に、新しいコミュニティ（テーマや課題に基づくコミュニティ）をつくってゆくことが求められる
- ⇒ テーマ型が地縁型を補完するという地域コミュニティのあり方のシフトが必要である

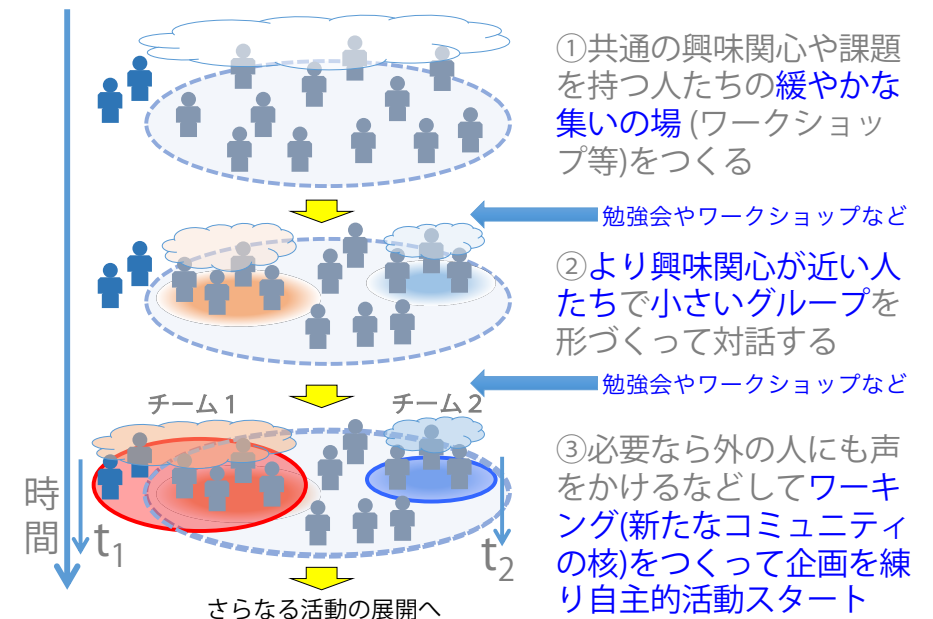
テーマ型コミュニティ

⇒ 今後は、地域の中での／地域を越えた「新しい繋がり」を生み出して行くことが望まれる



テーマ型コミュニティをつくる ～緩やかな「集いの場」からのアクションづくり～

- まずは共通の課題や興味関心をテーマとする、集いの場・交わる場（楽しい、行きたくなる場）をもうけること
- 一度の集まりで終わるのではない、アクションが起こる（新たなコミュニティが生まれる）ことをゴールとする継続的な場を運営すること
- 場の運営者は、集まったメンバーが地域の課題や資源を理解し、共有しながら、課題解決を見据えつつ、「やりたいこと」や「得意なこと」に取り組んでゆくように導くこと



地域づくりに向けた集いの場で 設定する目標やプログラム

- ① **地域の現状を認識すること**： どんな地域なのか？／地域の現状は？（地域の資源(宝物)や課題の発見）
 - ② **将来ビジョンの描き出すこと**： どんな地域であってほしいか？／どんな地域にしてゆきたいか？
 - ③ **今後の取り組みの企画すること**： ①②を踏まえ／何をやりたいか？何ができるか？どのようにやるか？
 - ④ **当該地域自体や他所の地域づくりについて学ぶこと**： 地域に詳しい人や外部講師によるレクチャー／他地域の視察
- ⇒ 参加者が地域を知り直し、地域に自分がどう関与するかを考え、他の参加者とそれを共有し、協働してゆくワークを企画・運営する

3. 地域づくりにおける 市民参加の場づくりの 事例紹介

取り扱う三つの事例

1. **平内町藤沢地区**＜農村部＞： 地域課題の解決を念頭に、新たな取り組みと担い手を生み出す
2. **平川市**＜平賀・尾上中心とした全域＞： 興味関心の近い若者たちで平川市を舞台とするテーマ型の取り組みとそれを営むコミュニティを生み出す
3. **弘前市小比内地区**＜住宅地＞： 従来の町内会活動にない、若い世代が必要と考える新しい取り組みと担い手を生み出す

Case 1. 平内町藤沢地区

青森県集落経営再生活活性化事業からの展開
(2014年～)

藤沢地区の概要

- 人口297人、111世帯（'14/4）
- 高齢化率4割弱
- 産業は農業が中心、サラリーマンも多い
- 藤沢町内会を中心に、地区内活動が盛ん
 - ・その他、公民館組織、八幡宮氏子組織、婦人会、老人クラブ、消防団、子供会、獅子舞保存会、農地保全の会、水利組合があり、町内会と分かちがたく存在

プロジェクトの経緯・目的

県の人口減少対策のモデル事業に地区が手をあげ、平内町と弘前大学の支援の下、地域づくりプロジェクトを行うことに

□目的

- ① 地区の現状を調査して、課題を知り、資源を発掘すること
 - ・特に、減少している人口動向を調べる
- ② 住民間で地区の課題を共有し、その解決に向けて地区内で実行できるアイデアを出し、今後の地域づくり活動につなげること
 - ・資源を活用してやれそうなことを考え、実施する



1年目8月 関係者初顔合わせ、地区の資源と課題について話し合い



1年目10月：地区の資源・課題を確認・発掘するための「まち歩き」



1年目10～1月：暮らし・環境についてのヒアリング調査（世代別） & 人口動向など把握のための全戸アンケート調査



町内会役員

●ヒアリング項目

- ・世帯や家族・跡取り
- ・人口の変化や人の移動
- ・人の交流やつながり
- ・地区の魅力や資源a
- ・生活環境 etc.
- ・職業や産業
- ・地区の将来への意向



消防団・子供会役員

1年目12・1月：秋田視察と振り返り

□感想として

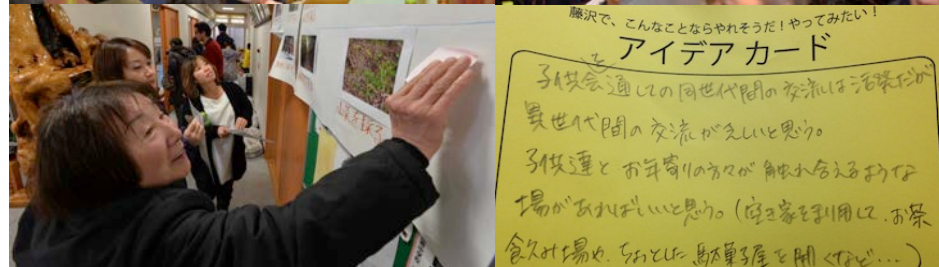
- ・ 高齢者と思えぬ輝きがあった
- ・ 山菜を取ったり育てたり、活気がある
- ・ 我々に出来ないはずがない

□今後の活動アイデアとして

- ・ 前高森山の林道整備
- ・ 公民館以外の人が集まれる場所づくり
- ・ マイタケの栽培
- ・ そばを打って皆で食べる



1年目2月：新年会でこれまでの成果発表 今後の活動アイデアを募るミニワークショップ



隣沢で、こんなことならやれそうだしやってみよう！
アイデアカード
 子供会通いの同世代間の交流は活発だが、異世代間の交流が乏しいと思う。
 子供連とお年寄りの方が触れ合えるような場がほしいと思う。(空き家をリノベーションして、お茶会や食事の場、さらには鳥小屋を開放するなど...)

1年目2月：将来のイメージと今後の活動内容等の検討

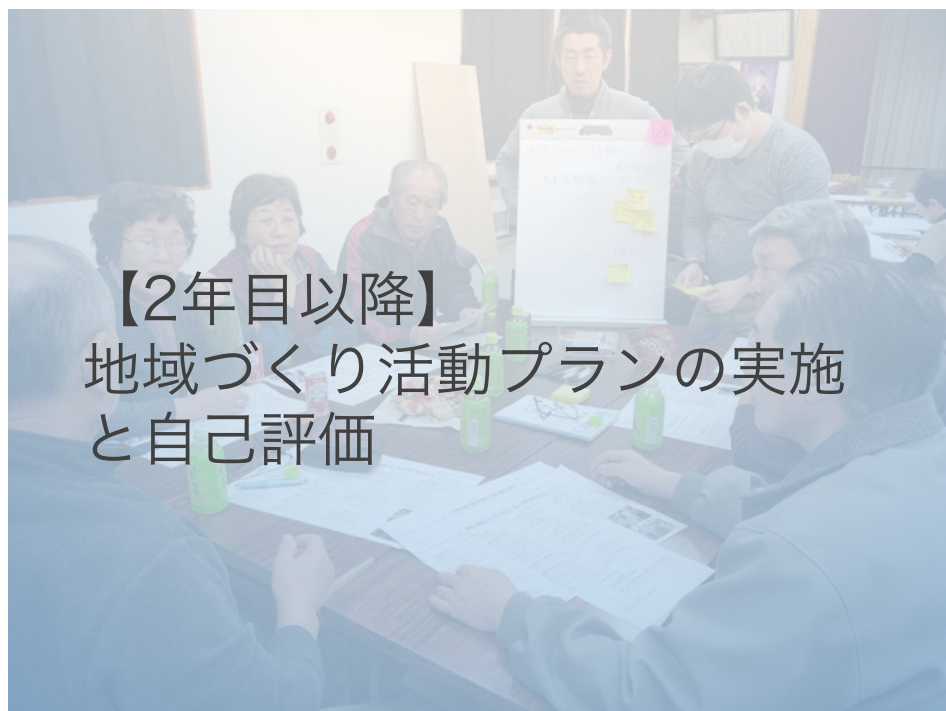


今後の活動内容のうち「やりたい・すぐできる」とされたもの

- ☆野菜や山菜などの**無人販売所**を設置する
- ☆娯楽・交流のため「**どっぶり引き**」の復活
- ☆**休耕田・耕作放棄地**にそばを栽培し、そば打ちを通じて交流する
- ☆**山菜や舞茸**などを栽培し皆で食べる
- ☆**健康教室**を実施する
- ☆**獅子舞の継承**に取り組む

☆=特に力を入れる

- 子どもや大人で畑をつくり、夏と秋に**収穫祭**を行う
- 子どもやお年寄りの**集まる機会**を増やす
- コミセン以外に近所で**集まれる場所**をつくる
- 前高森山(神社や湧水がある)の**登山道整備**



【2年目以降】 地域づくり活動プランの実施 と自己評価

取り組みの体制として・・・

- 2年目以降の取り組みに際して「**藤沢活性化協議会**」の立ち上げ
- 町会長が会長を兼ねる
 - 実質的には町会と重なり、明確な違いはない
- 取り組み毎に責任者を決め、その人を中心にして他のメンバーが協力するやり方

2年目6月：第2回健康教室
(認知症予防)



2年目7月：第3回健康教室
(親子クッキング=食育)



2年目7月：新郷村から講師を招きカゴ
編み教室 (以降自分たちで定期開催)



2年目9月～：ハタケシメジの栽
培とブランド化検討



2年目11月～：耕作放棄地の活用
(ハuckleベリー、さつまいも、蕎麦の栽培・収穫)



3年目：直売所設置に向けた学習会
(研究科客員研究員 竹ヶ原氏が場を運営)



3年目7月～：直売所オープン



3年目：獅子舞保存に係る囃子の練習会
(研究科客員研究員 下田氏が場を運営)

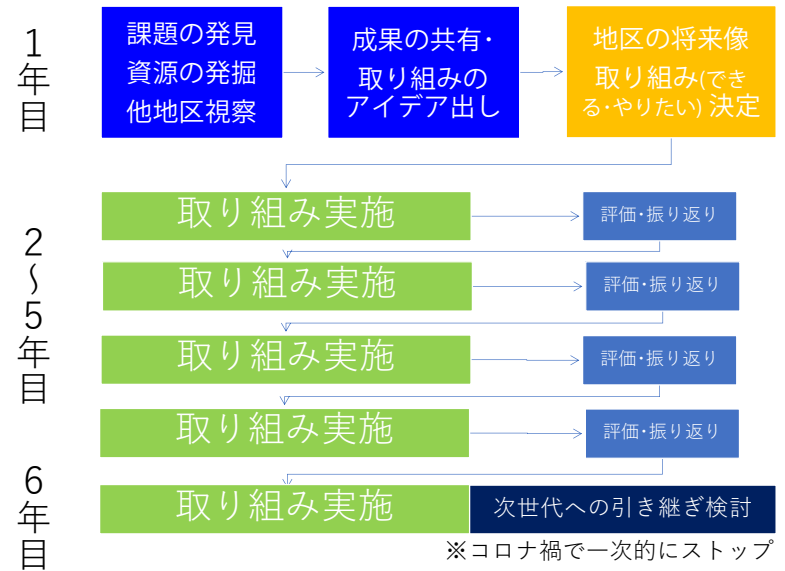


毎年度末、活動の評価を実施

- 1年目に「やろう」としたことの大半がスタートし、定着したものも多いことを確認
- 「とにかく大変」(町会長)、「失敗もあったが、実施することでコツがつかめた」、「生きがいになった」などの感想や自己評価



藤沢の取り組みの流れ



6年目6月:次世代の担い手候補を集めた「藤沢の未来づくり しゃべり場」



小括：「人材育成」の観点から見た藤沢地区の「場づくり」+取り組み

【成果】町会役員などの既存メンバーのパワーアップと裾野の拡大

- 地域活動の種類や量の増加：1年目の終わりにやろうと決めた事の大半を3年目までに実施できた
- 元々地域活動が盛んな地区であり、その母体となる町会、役員を中心に地域愛を持っている人々の存在があった
- 彼らが他地域の活動を知り、「自分たちにもできる」と確信し、新たな活動の取り組み方について学びながら試行錯誤を通じて新たな活動が地域に生まれて新たな参加者も得られ、地域が活気づいた（収益事業も運営）

【課題】次世代の担い手の育成

- この間、主力で動いていたのは現在70~80代の人たち、今から10年後に同じように活動を継続できるか？⇒今後も地域活動を絶やさないためには次世代の担い手の発掘・育成が必要

藤沢地区で現在進行形なこと 8年目：次世代にバトンを渡す検討

- これまでの取り組みは行う傍らで…
- 従来の地域活動も含めて、現在行ってきた活動をリストアップし棚卸しする作業
- 現役世代が、残したい・必要と思う活動に投票し、これまで関わってきた思いを言葉にして次世代に渡す
- 次世代にそれを見てもらい、今後藤沢で自分たちが何をやってゆくべきか、考えてもらう機会を設ける予定



Case 2. 平川市

平川市未来の担い手発掘・育成・支援事業
(2016~18年)

「未来の担い手発掘・育成・支援事業」とは？

- 平川市では若者(20~40代)の地域活動への参加が少ない点を課題として認識
- 地域への参画に意欲があるものの、なかなかその一歩を踏み出せない若い世代を支援し、**地域の実践者として活躍できる人材を育成すること**を目標としている(2016~18年の3年間)

- Step 1 発掘編 地域づくりに興味がある若者やアイデアの発掘
- Step 2 育成編 若者のつながりを深める取り組みと実践による人材育成
- Step 3 支援編 地域づくりの実践者としての活動支援

1年目 発掘編

1 発掘編 '16年12月9日 (金)
2 育成編 未来の担い手意見交換会
3 支援編

【目的・テーマ】

- 参加者同士で知り合いになる
- 自分や同年代の人たちにとっての平川のいいところ・いまいちなところを考える・知る



地図を囲んで交流しながら平川について語る

1 発掘編 '17年1月28日 (土)
2 育成編 未来の担い手交流会
3 支援編

【目的・テーマ】

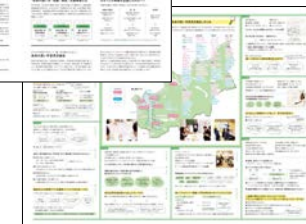
- 将来こうあってほしい平川のイメージを描く
- 自分たちでやってみたいこと、できそうなことのアイディアを出す
- 参加者同士で知り合いになる



「ワールドカフェ」で交流&アイデア出し

1 発掘編 '17年3月
2 育成編 「ひらかわ わ!わ!わ!
3 支援編 わんどのまちにわんどの輪」発行

- 本事業の年度内の取り組みを紹介した広報紙の発行
- 会合に未参加の若者や他世代の方にも取り組みを広く知ってもらうため
- 18,19年も発行

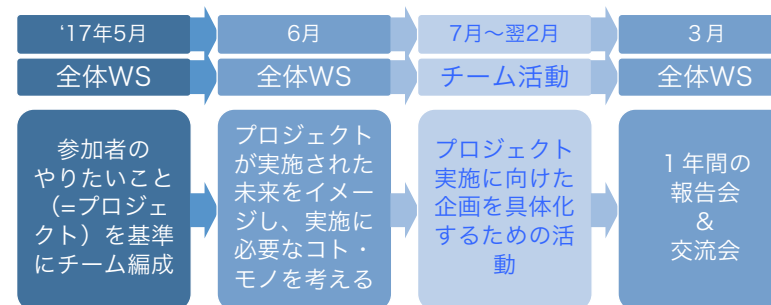


2年目前半 育成編

- 1 発掘編
- 2 育成編
- 3 支援編

2年目の方針と流れ

- 「集いの場」によって「平川といえば〇〇」となるコト・モノ生み出してゆくプロジェクトを形づくる



17年5月19日(金)
 1 発掘編 わげもの発
 2 育成編 「平川の未来づくりプロジェクト」
 3 支援編 の原型づくりワークショップ

【目的・テーマ】

- やりたいこと、できることを掘り下げ、平川の未来を照らし出すプロジェクトの原型をつくる
- 自分が関わりたいプロジェクトと一緒にやる仲間を見付ける



やりたいことを基準に仲間探し



チームの編成



企画案の作成

17年6月30日(金)
 1 発掘編 ひらかわ わわわ! ワークショップ
 2 育成編 「わげもののまちづくり
 3 支援編 ~わんどのまちにわんどの輪~」

【目的・テーマ】

- 前回のプロジェクト案を元に“本チーム”の結成
- プロジェクトが実施された未来の具体的なイメージを描く
- イメージ実現に向け、やってゆくことのリスト化と今後の予定づくり



前回の復習とチーム再編



プロジェクト実現のイメージ

リストアップと予定づくり

1 発掘編
2 育成編
3 支援編

2年目前半に結成された 3つのプロジェクトチーム

①平川市をPRする

「目的地平川市 (SNS)」

②平川市の農業を広める

「NEO農家プロデュース」

③気軽に集まれる空間をつくる

「フリーハウス!!」

⇒ 2年目の7月以降は3チーム毎に企画の作り込み
や活動を実施

※各チームの成果は2・3年目分をまとめて後ほど

1 発掘編
2 育成編
3 支援編

'18年3月11日 (土) ひらかわ!わ!わ!わ!「わけもの交流会」 みんなでつくるバスツアー in ひらかわ

【目的・テーマ】

- ・バスツアーをグループワークで立案することで、お互いにとっての「ひらかわ」の魅力を伝え・知り交流を深める
- ・投票が多かったグループの企画を実際のツアーとして実施（翌年実施）



各自のおすすめ
スポット共有



ツアーの
ルート設定



発表と投票

目標（特に3年目）

- ・ 発掘編 地域づくりに興味がある若者やアイデアの発掘
- ・ 育成編 若者のつながりを深める取り組みと実践による人材育成
- ・ 支援編 地域づくりの実践者としての活動支援

- 前年度からのプロジェクト毎の活動の継続、次の展開へのステップアップ
- 引き続き、新たな参加者にもオープンな形で、事業を展開できるように工夫してゆく
 - ・バスツアーの開催（学びや交流の要素をもっと組み込みつつプログラムを再検討後、5月末頃に実施予定）

3年目 支援編

1 発掘編
2 育成編
3 支援編

プロジェクト① NEO農家プロデュース

【目標】

●農業の良くないイメージを変える

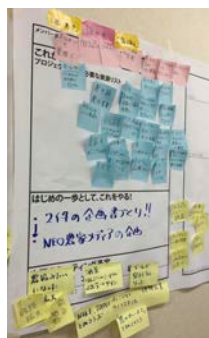
⇒本当の農業は楽しい！ 農業=つらい・忙しいのイメージを変える

●若者世代（高校生）への農業のイメージアップ

⇒農業の「面白い・かっこいい・楽しい」を若い世代に伝える

●農業のよいイメージ発信する

⇒農家以外の農業ファン（サポーター）を増やす



1 発掘編
2 育成編
3 支援編

どんな活動をするか？

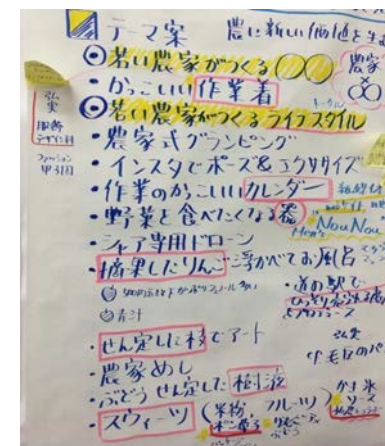
【活動内容】

①農業のいいイメージ発信

- 「totta」プロジェクト
- SNSなどで「農の楽しみ」を発信

②若者世代への農業のイメージアップ

- 「柏農×NEO農家」コラボプロジェクト
- 柏木農業高校の生徒と一緒に何かする
 - 打ち合せしたが、調整着かず未実施



1 発掘編
2 育成編
3 支援編

プロジェクト② 目的地平川市

【目的】

- 本当はいいものが山ほどあるのに…、「平川市ってどこ？」「何あるの？」とよく言われる「ひらかわ」のイメージを変えたい
- 「平川市をPR」して「目的地にしてやる」との思いから、ワークショップに参加したメンバー4名で結成

【活動内容】

- Instagramを使って平川市をPRすること
- 当初の目標はフォロワー500人
- Instagramに“hirakawashi”というアカウントを作成し、写真の投稿や転載

1 発掘編
2 育成編
3 支援編

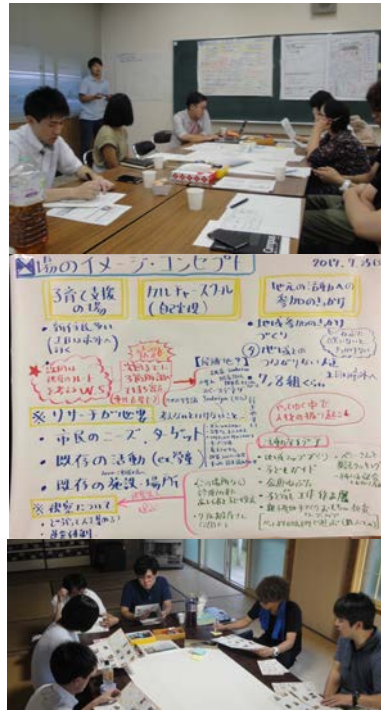
プロジェクト② 目的地平川市

- フォロワーは500人を早々に突破、3年目末1101人、投稿は242人
- 次のステップとして、「顔はめパネル」制作などを考えていたがやらず、活動としてはこれで一区切りに
 - 家庭の事情で携われないメンバーが出た
 - 後発で、観光協会やシティプロモーションなどが、投稿内容が類似する別アカウントを立ち上げた
 - 投稿内容がマンネリ化した（特に冬）
- ⇒メンバー「SNSによる広告も大事だが、“現実”もアップデートする必要がある」

1 発掘編 プロジェクト③
 2 育成編 フリーハウス!!
 3 支援編

【目標・メンバー】

- 平川市民は土日は市内にいるの？あまりいないのではな
いか？！
- 場所・空間があれば集まっ
て、色々な活動ができる！
- 平川市内に“気軽に”集まれ
る、“居心地の良い”場所・
空間を作りたい！
- その様に考えるメンバーで
チーム結成



1 発掘編 '17年10/31, 11/25, 26
 2 育成編 類似する場所の視察
 3 支援編

- 「空間」で何をしたいか検討するも、結論に至らず…
- 既存の場所を視察してきっかけや活動内容をヒアリングすることに



松の湯交流館・
NPO法人横町十文字
まちそだて会（黒石）



はっち（八戸）



まちぐみ（八戸）



うわさCafe（三沢）



14-54（十和田）

1 発掘編 '18年3月3日（土）
 2 育成編 若者のニーズを知るための
 3 支援編 ワークショップ開催

- 【目的】“気軽”で“居心地の良い”場
所・空間を作っていく前に、若者の
ニーズをつかみ、今後に向けた経験値
を積みたい
- デザイナー、保育士、大学生、観光協
会職員 など11名が参加
- 話してもらうテーマ
 - ・Q1：どのような活動があるとおも
しろい？
 - ・Q2：イメージ写真を見て、どんな
ことができそう？



1 発掘編 '19年3月23日（土）
 2 育成編 物件探しフィールドワーク
 3 支援編 「たんけんぼくのまち」実施

- オカモチ舎のシェアオフィス入居
者となるひと集め及び新規出店者
集めを目的に、オカモチ舎の空き
店舗調査を発展させる形で「空き
店舗ツアー」として開催
- 単に物件視察でなく、複数店舗を
巡り、まちの雰囲気も体感する
- 6名が参加
- アウトプットとして「空き物件
マップ」を作成し、今後気になる
物件の所有者に対して、物件の見
学とヒアリング実施予定



1 発掘編 プロジェクト③
2 育成編 フリーハウス!!
3 支援編

●プロジェクトスタート時から、**試行錯誤しながら、定期的に集まり、イベント、ワークショップの開催を含めて活動を継続**

●**紆余曲折したが、その場その場で考え議論したり、物件を調べたり、学ぶ機会に**

⇒その後活動が休止状態になってしまった

(候補となる有力物件が見つかったが、その活用方針についてメンバー間で一致せず、物件自体もいつから使えるか不明瞭なまま時間)

「人材育成」の観点から見た平川の取り組み

【成果】 緩やかな「若者のコミュニティ」が形成された

- 平川に愛着を持つ100人（うち一般市民70人）程度の若者が参加
- 場の運営を通じて、初めて顔を合わせて知り合いとなり、少なく見積もっても平川をテーマとする対話／交流がなされた
- 自分が平川に持つ愛着への気づきや平川に愛着のある他者の存在を確認できたこと
- プロジェクト活動の成果が一部現在も残存

【課題】 若者は忙しい

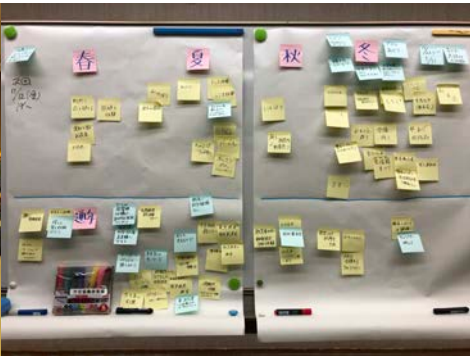
- 2年目後半以降の継続的な活動に参加できたのは10数名程度
- 3つのプロジェクトについてもできたこと、できなかったことがあった
- 若者は本業や子育てなどで時間をつくることは困難

Case 3. 弘前市小比内地区

弘前市町会担い手育成事業（2020年～）

プロジェクトの背景

- 弘前市役所市民協働課では、町内会組織を対象に**若者の町内会活動への参画を強化するため、「町会担い手育成塾」を実施**している
- 2018-19年度は、主に町会関係者を一堂に集めて、座学やワークを実施していたが、**2020年度から特定町会を対象に実践的な取り組みを行うこと**に
- 小比内町会が事業受け入れを快諾し、モデル事業として昨年度から事業をスタート



「人材育成」の観点から見た小比内地区の取り組み

【成果】若い世代のニーズに基づく活動を自身で実施

- 集いの場の継続的な運営で15名以上の若い世代が参画した
- コロナ禍でも「ねふた運行」「餅つき大会」を企画し実現できた
- 活動実現を町会役員、婦人会、地元保育園や医療福祉大学がサポート

【課題】活動や集いの場の継続的実施方策

- ワークショップやミーティング場の企画・運営者は市役所だったが、今後自分たちで運営できるようになるか（組織化をどう図るか）
⇒年度内にこれを検討するワークショップを開催予定
- 町会の本体事業の担い手づくりにどうつなげてゆくか

未来の平川市の担い手としての市役所若手職員

- そもそも、教員1名と少数の事業担当職員で全てをマネジメントするのは困難
⇒市役所の若手に活躍してもらおう！
- 市役所職員は、まさに平川の未来を形作る仕事にたずさわる当事者
- 市民のやる気を引き出し、市民とともに将来の担い手になってもらうことが目標

Case 2'. 平川市の市民参加の「場づくり」を担う職員の養成

平川市役所若手職員ファシリテーター研修・座談会（2016年度～）

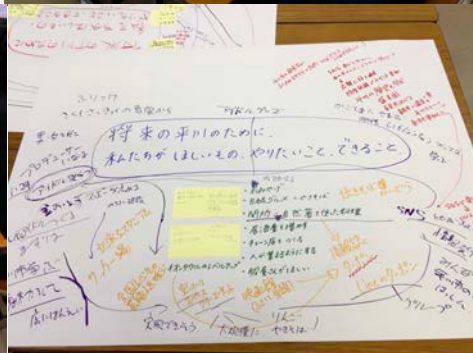
第1回研修

- 地域づくりの現場で必要とされるファシリテーターの役割や仕事についての座学
- 「意見交換会」で実施予定のWS用にファシリテーターの練習



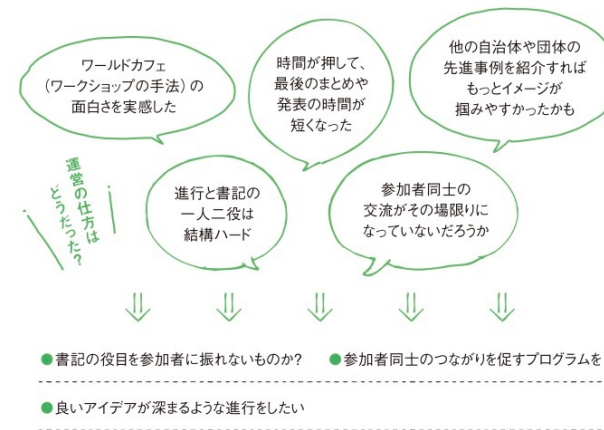
第2回研修

- WS手法「ワールド・カフェ」の考え方とやり方を理解する
- ワールドカフェの体験と「交流会」で実施予定のWS用にファシリテーターの練習



座談会の開催

- WS修了後に感想や今後の抱負などを話す場を開催



4. まとめ

「場づくり」の意義や課題
と今後の展望

「場づくり」の意義

- 既存の人材やコミュニティがパワーアップし、これまで以上に活躍する契機になる
- 隠れた人材、燻っている人材の掘り起こしに繋がる
- 地域に対する再認識をもたらし、交流による参加者相互の関係構築がなされ、テーマ型コミュニティが形成される
- 「新たな活動を検討するための集いの場」から新たな活動が生まれれば、その活動自体が新たな集いの場にもなる (コミュニティの拡がりや活動の定着・安定化)

など

「場づくり」の課題と展望①

•若い人問題：

- 今後の「場づくり」における主要ターゲットは若い人
- しかし若い人はやる気があっても忙しい：仕事（本業）にも子育てにも忙しい人たちにどこまで期待できるか？
- 現時点で活動に十分に時間が取れなくても、将来的には余裕ができるかも⇒具体的な取り組みが行われなくても「交流のための場」を設定しておく

「場づくり」の課題と展望②

•世代交代問題

- できてしまう先輩たちが優秀すぎると、次の世代の台頭の機会を失わせてしまう可能性も⇒地域づくりの「場」に若い世代が加わる機会を逸することも
- 10年後、20年後を考えて、早めに若い人たちが活躍できる環境をつくる
- 従来の取り組みを若い世代がそのまま引き継げるのか？、そもそも引き継いでゆく必要があるのか？、引き継がなければどんな事態が生まれるか？など活動を再検討して次世代と対話するような「場」も必要になってくる
 - 同じことを同じようにやってもらうことは諦めることも必要かもしれない

「場づくり」の課題と展望③

- 新たな地域活動の核になるような人材をつくるのはとても難しい：「地域を何とかしたい」という覚悟をもった個人をどうつくるか？そもそも地域づくりの場につくれるのか？

⇒子ども時代から、地域が「地域の中で育った」「地域に育ててもらった」実感を持てる人を育てること以外になさそう

おわり